



## 第10回 スポーツツーリズム・コンベンション in 名古屋

2022年 2月15日(火)



参加費無料

会場：名古屋国際センター

参加

### オンライン開催

先着 500 名 (要事前申込) Zoom ウェビナー

最新の開催情報はJSTAウェブサイトをご覧ください

<https://sporttourism.or.jp>

10:00-

オンライン  
配信①

開会式  
主催者  
挨拶

- ・名古屋スポーツコミッション 会長・名古屋市長 杉野みどり
- ・名古屋スポーツコミッション 副会長・名古屋商工会議所 常務理事 田中豊
- ・一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 (JSTA) 会長・大阪体育大学 学長 原田宗彦

10:30-

オンライン  
配信①

基調  
講演



公益財団法人愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会 事務局長 成瀬一浩氏

1962年生まれ、1987年愛知県庁へ入庁。中部国際空港やリニア中央新幹線等のプロジェクト、企画行政に長きに渡って携わる。スポーツ行政には2014年度より従事し、アジア競技大会へは招致の段階から関わり、アジア競技大会推進課長、国際スポーツ大会推進監など関係の役職を歴任。2020年4月より現職。趣味はランニングで、3月には組織委員会のメンバーと県内で開かれる西尾マラソンと名古屋シティマラソンに出場予定。

11:00-

オンライン  
配信②

### パネルディスカッション「2020 から 2026 へ：SDGs に配慮した国際スポーツイベントの可能性」

第20回アジア競技大会への期待が高まる名古屋市において、一過性のスポーツイベントとせず、大会終了後まで見据えたビジョンとしてSDGsを踏まえた「2026 アジア競技大会 NAGOYA ビジョン」が本パネルディスカッションコーディネーターの原田宗彦座長の下、策定されました。新しいスポーツイベントの形として求められるサステナビリティやアジアにおける都市のプレゼンスの高め方について有識者と共に探ります。



東南アジア諸国連合 (ASEAN) 日本政府代表部 一等書記官 樫田康征氏

1986年福岡県生まれ。早稲田大学政治経済学部を卒業後、2009年経済産業省入省。2015年から2017年オーストラリアのグリフィス大学でスポーツマネジメントを学び、修士号を取得。2017年にスポーツ庁に出向し、参事官(民間スポーツ担当)補佐として、スタジアム・アリーナ改革、スポーツオープンイノベーションなどスポーツ市場の活性化を担当。その後、経済産業省商務・サービスグループクールジャパン政策課、通商政策局総務課課長補佐(JETRO・水際対策担当)を経て、2020年6月よりASEAN 日本政府代表部一等書記官としてインドネシア駐在。主に日ASEAN間における経済、エネルギー分野の協力推進を担当。



公益財団法人愛知・名古屋アジア競技大会組織委員会 事務局長 成瀬一浩氏



公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会  
スポークスパーソン 高谷正哲氏

大卒後、外資系広告代理店マッキンゼーエリクソン入社。営業に5年間従事した後、退職して渡米。シラキュース大学大学院にて広報の修士号を取得。帰国後、大阪世界陸上、2016年オリンピック・パラリンピック招致の国際広報担当、国際トライアスロン連合のメディアマネージャーなど歴任。2011年9月より、2020年オリンピック・パラリンピックの招致活動を行い、その後東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会設立と同時に、戦略広報課長に就任。2017年8月より現職。



一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構 会長  
大阪体育大学 学長  
原田宗彦

13:30-

## 1-1: アスリートキャリアを地域に活かす

オンライン  
配信③

多くのプロ・実業団チームが所在し、多数のオリンピックを輩出する名古屋市。アスリートが地域の中でキャリアを活かして見出せる社会貢献やビジネスモデルの可能性や課題を当事者の目線で探ります。



株式会社マイナビ アスリートキャリア事業室  
事業室長 木村雅人氏

04年、株式会社マイナビ入社。現在はアスリートの「人材育成」と「就労支援」に関する事業を執行。大学スポーツ協会との共同事業開発責任者。アスリートが競技者としても引退後もイキキと活躍できる社会を実現させるため、アスリートと社会を繋ぐエコシステム構築を目指して活動。



大同特殊鋼株式会社 人事部人材育成室・主任部長  
大同特殊鋼ハンドボール部監督 地引貴志氏

茨城県守谷市生まれ。日体大在学中に2度の日本一を経験。06年大同特殊鋼入社。15年まで選手として在籍、社業をこなしながら日本選手権4連覇、2度の日本リーグ4連覇に貢献。また13年から14年には日本代表チームの主将を務める。15年に現役を引退後は一度社業に専念したが、18年にコーチとしてチームに戻り、19年に監督に就任。



名古屋グランパスゼネラルマネジャー 山口素弘氏

前橋育英高、東海大を経て、全日空(後の横浜フリューゲルス)に加入し、プロキャリアをスタート。99年に名古屋グランパスに加入、クラブ2つ目のタイトルとなる天皇杯優勝に貢献。日本代表中心選手として、98年フランスW杯では全3試合にフル出場。引退後は、解説者を経て、12年に横浜FCの監督に就任。18年に名古屋グランパスアカデミーダイレクターに就任、現在はゼネラルマネジャーを務める。



中部大学 生命健康科学部 准教授 松村亜矢子氏

小学生からシンクロナイズド・スイミングを始め、05年と07年の世界水泳2大会で6つのメダルを獲得。W杯やアジア大会などの国際大会でも数多くのメダルを獲得。08年北京オリンピック、チーム5位入賞。現役引退後、09年から中京大学職員として5年間勤務。退職後、15年に早稲田大学大学院スポーツ科学研究科(修士課程)を修了。19年慶應大大学院メディアデザイン研究科(博士後期課程)を修了し、運動プログラムのデザインを中心に研究を進める。

<コーディネーター>

筑波大学大学院人間総合科学学術院 准教授

JSTA 常任理事 高橋義雄 (スポーツ庁スポーツキャリアサポートコンソーシアム会長)

13:30-

## 2-1: ホストタウンレガシーから考えるスポーツと多様性

オンライン  
配信④

パラスポーツが大きな注目を集めた2020パラバスケ事前合宿受入れで得られた気付きや当事者の目線、競技団体の使命など、一過性ではなく共生社会を繋いでいくためのハードに捉われないレガシーの形とは。



学校法人名城大学 総務部人事課 猪股祐子氏

ANAで学んだおもてなし精神は、仕事だけでなく、その後の人生を豊かにしてくれました。空港の現場や接遇研修講師を経て、名城大学キャリアセンターに転職し、エアライン就職サポート「M-CAP」を担当。エアライン研究グループ「M-Line」の学生たちと共に、学んだホスピタリティを生かしてホストタウン事業など、企業・行政の様々なイベントをサポート。現在、総務部人事課で研修や採用など人づくりに係る業務に従事。



日本チェアスキー協会 理事

一般社団法人ZEN 代表理事 野島弘氏

17歳の時の交通事故が原因で車いすユーザーに。2年間の入院後、社会復帰し仕事に明け暮れ、32歳でスキー競技に出会い、36歳で長野パラ日本代表になるもレース前の公式トレーニングで大転倒し頸椎骨折で一時は手が麻痺となる。必死のリハビリで1年後にはグレンデに立ち、次のソルトレイクパラを目指すのが僅かに及ばず落選。リベンジを誓いトリノパラ日本代表となり精一杯レースに挑むも完敗を最後に選手引退。引退後ジュニア選手普及育成活動を中心に様々な障害者スポーツを一年中取組み積極的に活動。



公益社団法人日本トリアスロン連合(JTO)

専務理事 / JSTA 常任理事 大塚真一郎

84年から、国内外においてトリアスロン競技の普及に努め、NFでは独自のマーケティングシステムを確立。アジアトリアスロン同盟では19年6月に事務総長に。国際トリアスロン連合では04年から理事、16年に副会長当選。11年から21年の10年間JOC理事を務め、現在はJOC国際委員会委員。元スポーツ庁参与、現在は、第3次スポーツ基本計画部会員。

<コーディネーター>

共同ビーアール株式会社 顧問 / JSTA 監事 吉永憲

15:00- 休憩

15:30-

## 1-2: スポーツテックの最前線

オンライン  
配信⑤

2026年第20回アジア競技大会開催に向け、アリーナやスタジアムの大規模改修が進む名古屋市で、スポーツの最新テクノロジーが地域や社会、ビジネスにもたらす可能性を見出します。



EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社  
エクゼクティブディレクター 岡田 明氏

公共・不動産セクターにてスポーツを起点としたビジネス、テクノロジーコンサルティング担当。国内大手コンサルティング会社でシステムコンサルタントとして流通・不動産・保険など多様なプロジェクトに従事後、外資系総合ITベンダーにてスポーツビジネスリーダーとしてプロ球団のDX推進、スタジアム・アリーナ構想などに携わる。デザイン思考を用いたUXデザインなど顧客を中心としたビジネスデザインの豊富なプロジェクト経験も持つ。



凸版印刷株式会社 スポーツ事業開発室 事業推進部  
部長 大川誠氏

96年入社。エコロジーやCSRをテーマに顧客企業が行うコーポレートコミュニケーションの企画制作業務に従事後、自社のCSR推進担当。17年より、凸版印刷がパートナーとなったラグビーW杯2019、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のアクティベーション活動の統括や、スポーツ領域における新たな事業創出を推進。



株式会社 NTT ドコモ スポーツ&ライブビジネス推進室・  
ベニュー担当課長 (愛知国際アリーナタスクフォースメンバー)  
上村哲也氏

日本テレビグループからキャリアを開始。スポーツ&エンターテインメント業界で17年のマーケティング&広報経験し、RWC2019組織委員会マーケティング部長や東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会ニュースデスクを歴任。2021年より現職。



<コーディネーター>  
中京大学 スポーツ科学部 准教授 舟橋弘晃氏

15年、早稲田大学院スポーツ科学研究科にて博士号(スポーツ科学)を取得。日本学術振興会特別研究員を経て、15年より早稲田大スポーツ科学学術院で教鞭をとる。21年より現職。専門は、各種スポーツ投資のインパクトを評価する「スポーツ経済学」と、それらの社会的受容性を分析する「スポーツ政策」。

15:30-

## 2-2: プロスポーツにおけるスポーツホスピタリティの展望

オンライン  
配信⑥

ホスピタリティ商品のみならず、チームと地域の連携によりツーリズムやまちづくり、地域経済への貢献などステークホルダーの相互作用によるスポーツホスピタリティの展望を事例と共に導きます。



名古屋ダイヤモンドドルフィンズ株式会社 事業戦略  
推進グループグループマネージャー 園部祐大氏

名古屋市生まれ名古屋育ち。セルスプロモーション業界にて企業のコミュニケーション戦略立案力と企画力を養い現職へ。プロスポーツの地域密着・貢献のあり方は地域社会課題解決であると考え、多様なステークホルダーを巻き込みプロスポーツの力を強みに、コロナやテクノロジー等による時代の変遷と共に変わり続ける社会課題の解決スキームと環境・体制の構築へ励んでいる。



沖縄市 企画部 参事 兼 プロジェクト推進室  
室長 山内 強氏

滞在型観光の新たな沖縄市のランドマークとなる施設「万人規模の多目的アリーナ建設」事業において、14年度のスタート時から『沖縄アリーナ』建設に携わる。14年度は企画部プロジェクト推進室主幹、15年度に室長を経て、18年度より現職。現在は今年度竣工した沖縄アリーナの運営と整備、プロフィット化に向け奔走している。



静岡ブルーレヴズ株式会社 代表取締役社長 山谷拓志氏

93年リクルート入社。営業、企画職に従事。アメフトチーム「リクルートシーガルズ(当時)」の選手としても活躍し96・98年度ライスボール優勝。00年選手引退。元アメフト日本代表。リンクアンドモチベーション・スポーツマネジメント事業部長を経て、07年にB1リーグ所属「宇都宮ブレックス」を創設。設立から3年目で田臥勇太選手を擁し日本一となり3期連続黒字化を達成。日本バスケットボールリーグ専務理事を経て、14年よりB1「茨城ロボッツ」社長就任。経営再建し21年B1リーグ昇格を果たす。21年6月から現職。



<コーディネーター>  
株式会社ジャパン・スポーツ&ツーリズム・プレミア 倉田知己氏  
84年日本交通公社(現JTB)入社。豪州駐在時にシドニーオリンピック現地幹旋部長として従事後、五輪TOPスポンサーに駐在し五輪グローバルホスピタリティ3次大会担当。その後JTBでFIFA W杯や五輪事業等を統括。ラグビーW杯責任者として17年スポーツホスピタリティ専門のSTHJapan社設立。20年JTB退職後、ジャパン・スポーツ&ツーリズム・プレミア社を設立。



主催 名古屋市 | 名古屋スポーツコミッション | 一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構  
後援 観光庁 | スポーツ庁